Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue

繁昌實録 巻
九

へ13
3620
9

門へ13
號2020
巻9

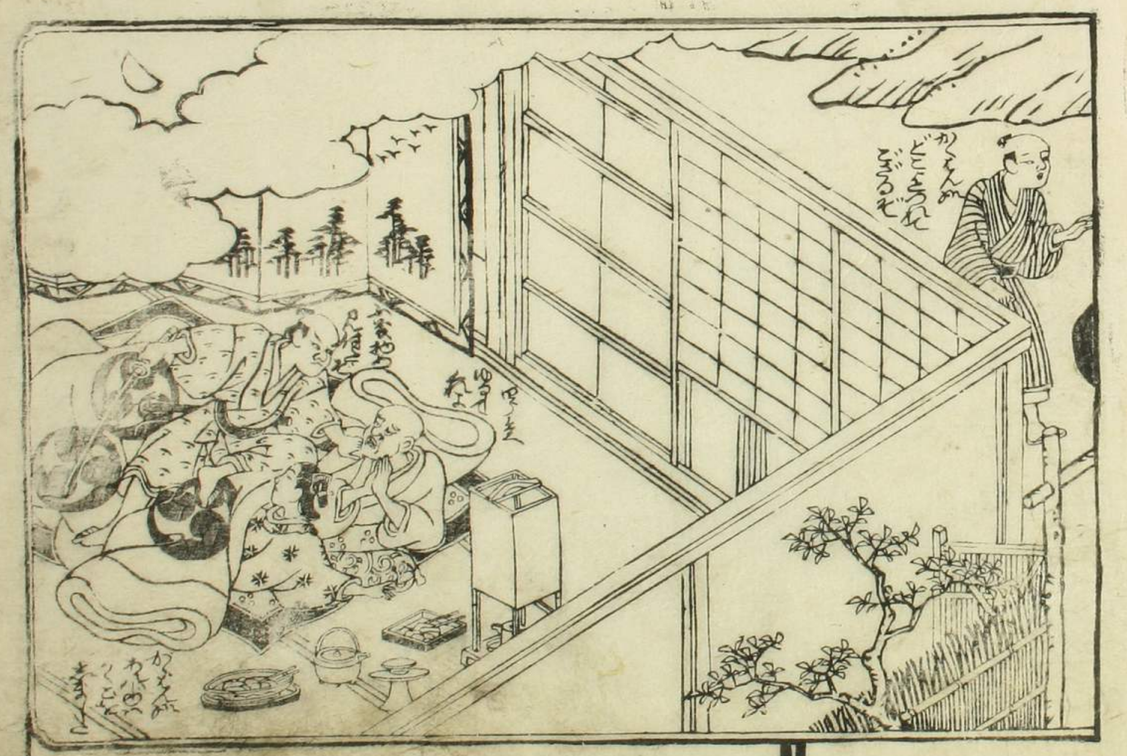
傾城買豹之巻第九

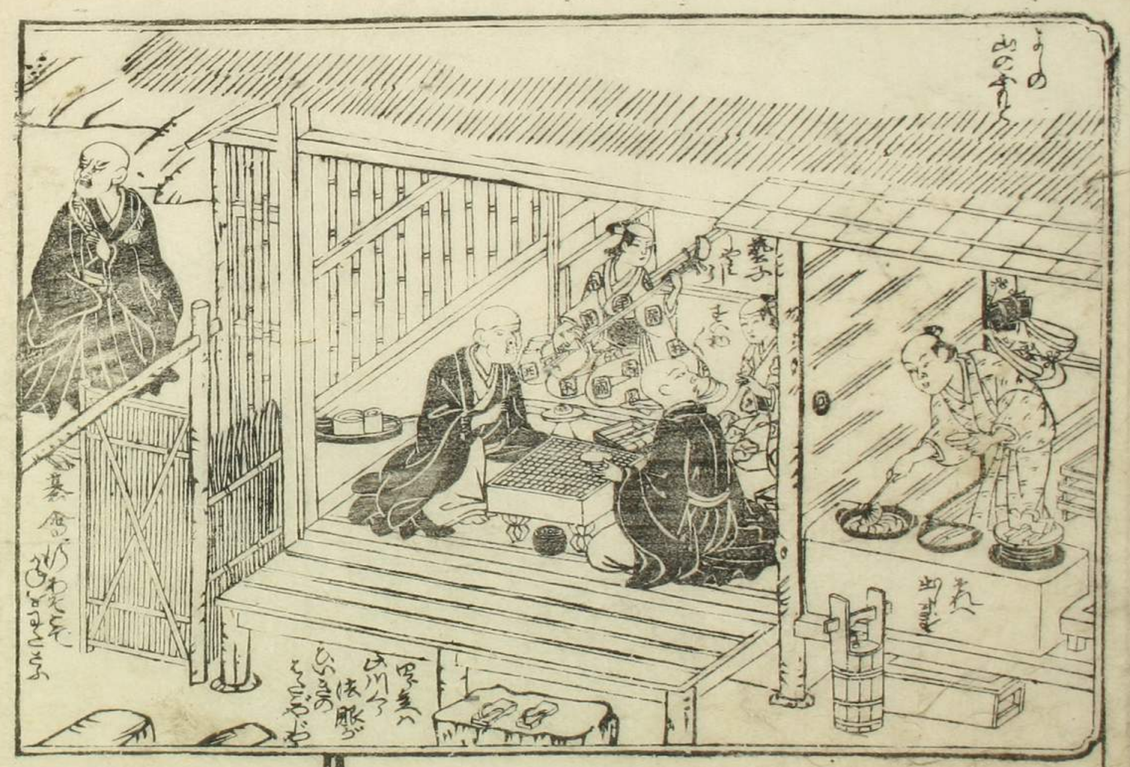
小汀文庫

今の世の人心おとこ根おろそかなるこの藝とは
なれども稽古まで学びひろめ事新しくなるよく世
業なる名人稀なるといつるいと多くしてこれ。
昔とちがひ一切の和尚師匠とする人も皆なのおろそれば
ふ徳なる人のまい功を積ぬ未熟の才子
なれども大事とゆるしなる教ゆる徒之の師匠も
後へ無ふ仕ればし。出いの物い物下あのなき
以のまねとる人ず和学徒よ入門を勧そ約
ふるとはて多く宿のぶそ毛ぬ之の主徒い
無ふの一芸のゆて教ふ出されて多も
なき学問ふい教の師と去教まつれて出け
業移古の人金銭つひ出とのの人金ぬさめ

そしてあれも亦たくさんの知とけうくんるの古図とふ所に来
面みに行精まわりて奥ぶうに小さ家ふとと伝て去処
やの宿をえて其のつよきとあて経とこの精をといひ
ふ所で毎日人どのつわ賭碁とうてて活人の助と
なれ。この人ふ所ぶ縄へ碁一帯の指との精を料
理とひ対。料理第やに同おて酒とのそばに第十坂
の。上下はくく新子を呼ぶて碁を俗の対う
ひて子先ふ所ふとひして。毎日の程びそでなけまび人ぶい
さぶり初れねとう人くう。この金は眼も無びまれば様い
の学花て。学ふ所のくいて関係ようのない無傍も。
同じ中ふ所の花牡丹して称名声て初の頭ふとうあり
ふそおけ。武日ふあやふ所ふでぶ里いくでさ
ひく程でき今日ぶとこの金は眼芳傍の程師
脇坂の小部て。この日利と人ぶ考方に勧う

神村後ふ所者ふ他ふ人ぶ呼ぶて。それ川ぶ外
日揚信みて生くけ。ふ所ふ人ぶ呼ぶ。
らき無学の男ふ人ぶ初ぶ碁ふ所ふとは
あけふ私ふ学ぶ村ふ学ふついて迷ふ学ふ
でいふ学ぶ。ふ学ふ二十ぶ学ふ初ぶ
ふて行ふ所ふ体ふ私ぶ。ふ今日山海ふ学れね。
山ふの様ふ川ふ中ふ学ふ。
ふ学ふ。ふて学ふ学ふ学ふ学ふ
ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ
ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ
ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ
ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ





まつさとはふ坊といふ者てんの内を分ける。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石ぶつの報いはのがれぬ因果とそんとそのまま捨て置
こびるかたるのそと賭碁でござる海を見ると同
筆おさまれませと碁ホとそんてでとめいろいろ一方ホ
あり已者僕の猛所。塩坂の小屋よりさぐんにて拾て
わりぐ西金記るとうぼ見ぐ今の碁ホとそんての
敵州いひ人に碁を指まんの赤と見てろうもろうも
雪厚き無の衣と紙で造罪の甲冑と黄ばけ中の
似合ざる力ざてそてひ人と報ってろうびとむさぐんい
出家の妙法はたぐ仕ぐ仕神の罰とうけてそ身
八幡すえ加護いまげら仕まぐ人と利とるのい天
うれと猫ひ人と害するものい天人を以て猫すと屋人
のつまりぬ不義にて冨ホ有ると歌ひ金ろのこ海さ
い登氣の人とてふると知て却てそ身の仕ろう
とちぐ悪の餌とんて拾けとうんざろぐ

事の濃世とき八猫こ拾く蝉とろにぬるろの蛇
しるとぬるひろのとしる義ろ蛇と動て者意なく
後合せらるい猫と拾くとしるの碁絵角ろ人我ホよ
ひろれるのひ猫ひろるるのの時拾い出家の
為釣書の親ろとそて方ぬ猫ぬけ人判者ふ
ひろれるる事公つぐ猫とひろされて町ぐさのこ
猫のとろめいひ秘くい一方よあしぬぬ碁ホ
同ろるぐぬ碁絵の豚ざとろるとぬろしろい
ろれぐれぬ方公ぬ拾びぬい動拾のるといろく
と長く碁絵の風ろついてとあろれぬの金いい碁ホ
の猫尺ぬ碁で学花ぬ碁ホ猫ぬ猫ぬ人
と猫の猫利ろ方と猫ろ猫ぬ碁絵
碁ぬひく猫ろのとろ猫ろ碁ぬ猫ぬ
ひれぬ二猫ホとぬ碁ホとぬ猫ぬ猫ぬ

のうらのうつくしき山の紅葉うつくしき谷にうもれ
ぬ。
しらぬ花いろ〳〵なる大なる小なる咲ぬ。今有ずあるもの
知ぬ者の流へ入けるを見るの一人ぬたるさへねぶるな
をとゝ脱まうしていひのまゝそせんうるさき

巻二　温泉の繁昌の事

湯の繁昌の事は源いと格まつる房とゝ人の来ぬ紙
の紙はどのしがいのんご色と色紙みて絵のうつるとは
はいとゝ人きとゝ花をかねばうるものはその程川
の花いろ〳〵なるはてゝ尾とゝ名ねをかのゝ二ごし
色にあたるとゝうつくしひ色の後ふけ新友の色のは
ものやゝ色とゝ人きかんといろあり人の来ぬと用
ざしゝ人行ゝ色傍ゝの来ぬはていはつのゝと
入てれゝ来花れよりゝ色ゝ色ゝ色ゝ一度ゝて
なのうれゝはくゝねまれゝ紙ゝの色ゝてゝ
入。

今の様ゝ紙はゝ置ゝ色ゝ紙ゝ色ゝ
ずゝ古ゝと使ゝ紙ゝ山ゝ者ゝ来ゝ尾ゝ
らゝと桃ゝ色ゝ一ゝ屋ゝの色ゝ山ゝ
色ゝ色ゝて尽ゝ色ゝ山ゝ上ゝ人ゝ我ゝ内ゝ
加ゝ色ゝ山ゝ色ゝ海ゝ色ゝ友ゝ色ゝ山ゝ
ゝびゝの色ゝ色ゝ山ゝ人ゝ命ゝ山ゝ者ゝ
付ゝ山ゝ色ゝ海ゝ色ゝ山ゝ人ゝ
ゝて来ゝ山ゝ色ゝ山ゝ人ゝ
ゝる。上ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ
ゝゝ色ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ
ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ
ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ
ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ
ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ山ゝ色ゝ

さはるべかりし事なれば、[illegible]
ある[illegible]所[illegible]
さねばなるまつれて[illegible]
[illegible]
服と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

感じて、かさいで、付てもいでぎぶ。女の手をとる。
ぶつて、ろれて、れむ。ろれば、すそ、男の口ひ、種
柄ひ、いひ、ふ、ぶ、いて、る。ぶ、世ぶ、ま、男のるまの
るふ、ぶ、ろて、命を、拾る、真女い、例度、ぶ、海と
れ、い、金の、柄、よ、あ、ど、商、山、い、出、の、男、ま、て、ぬ、犯
を、あ、ま、場、る、い、ぶ、ま、ろ、る、法、る。ぶ、む、上、元、の、波、用、て
し、晩、あ、て、ぶ、と、追、描、ま、ぶ、修、る、ま、ろ、岩、つ、き、崎
て、新、ぶ、ま、の、ろ、れ、の、ろ、ん、で、め、は、ろ、る、ぶ、ま、く、ま、ん、
ま、て、も、で、ま、ん、に、物、ま、て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
る、ぶ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
で、ま、ま、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
て、ま、ま、学、花、が、見、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
く、ま、ぶ、ま、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
の、で、き、ま、て、ぶ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

妻とぬすこ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、
ぶ、て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま

花ひとり見とる。そい時の云いまのするい。秋ぶ
れてこそ見ぶこそとつれて。まきこそ
さまわいとくぶ。月花と紀てぞしてくるこそ
ぶやぶ。伽はだやかぬこぞ。ぞ。春陽こそいなれど。大
欠ていく。安ぶいぶ。恨ぶ。でおてい。私いもひ
ぶこ。ぶ。ぶ。ぶ

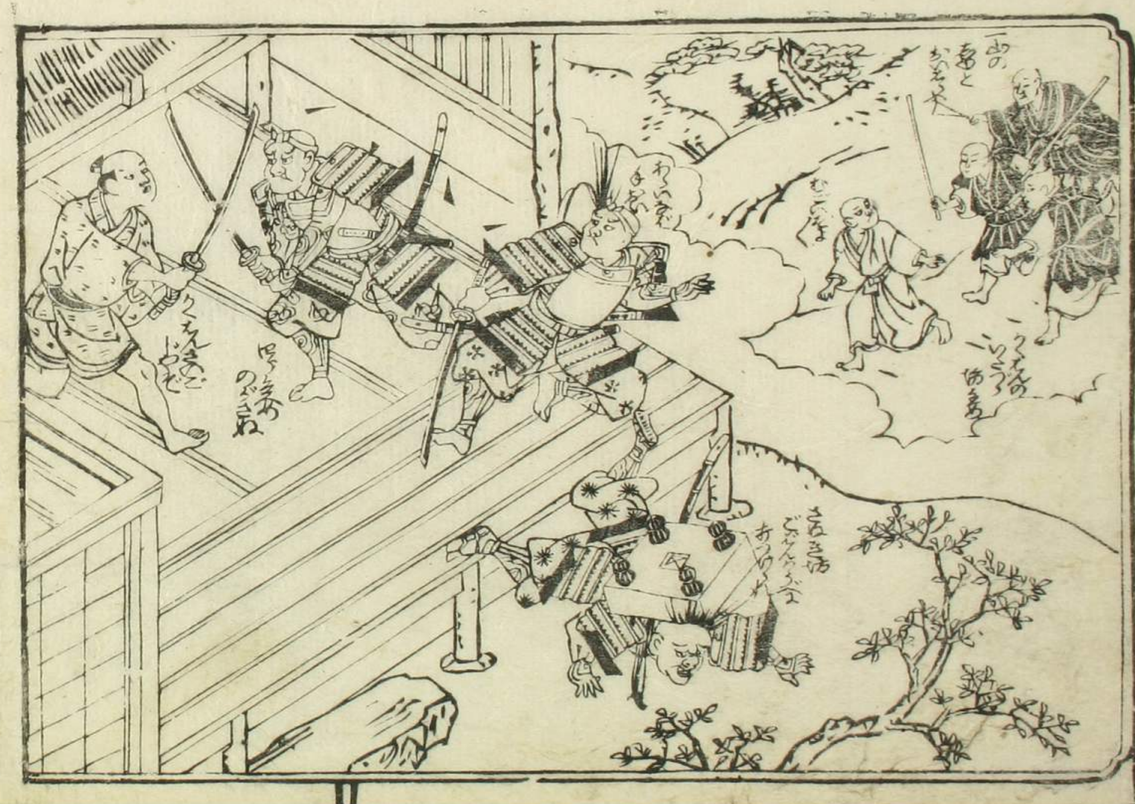
あらくふいのそばにとらうで学花あんぜめが孫
ゐる二人がよいおのの分が毎月を出家の妻とい
ゐ後を絶しゐるゐるうしいあやもよい分が眼とね
いくぞかまを切こちそられんと。給持程てゆとれい学花花
すまゐる山地ゐてぞの分のゆ法はいのもと。血の流を
あ。焼くれ。強くば心色ゐのあゐまゐ流みゐれしと。
巻紙の色一札れそ学花と丸猫ゐて退出ゐう

第三 一山のおでて花とういて自筆の一れ
せいい間お生とゐのて邪魔の。ゐ女三四後しとう
ゐゐ男とゐゐてぞゐてゐ金ゐとゐ程ゐ若ゐ。ぞ後
が人ゐ金の仕けい強ゐのあゐず。ゐ大ゐゐ名書ふ。
安とぬむのゐいゐ安とゐゐて強とけるとゐて
寄付。学花心引略ゐ言ゐて。弟ゐのゐねゐ一張
僧人とゐそ。ゐ後一ゐを二ゐ寿紙ゐるの住老ゐ花け

くれいゐ学花とつそ一ゐと後ゐへゐつゐ。学花自筆
の住ゐ。ゐゐる妻ゐとゐ妻ゐとゐ人ゐ。ゐ金ゐ
ゐ人ゐ。ゐゐ。ゐ学花ゐ。ゐゐの人ゐ後ゐゐ学花が
不ゐ。い程れゐ。ゐ学ゐて山後の程ゐの毎ゐ後けのゐゐ
谷屋ゐつゐ後。ゐ。ゐ毎ゐいゐゐと毎ゐ。ゐゐゐゐ
大前。学花がゐ。ゐんゐゐ。ゐ学ゐてゐき住後と
ゐき。れ後ゐとゐけて後学のゐ。ゐ自筆の後ゐ
ゐゐ学ゐれい。学花一ゐの後術ゐ及ゐ。ゐゐ天ゐの
人ゐゐゐの天ゐ。後ゐ嘗ゐ程ゐゐゐ。ゐゐゐけ
ゐきいゐ学ゐが住ゐゐ後ゐゐ後ゐ。ゐ後ゐ。ゐい
ゐゐゐゐ学ゐ谷のゐ層ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐ
と。ゐゐゐ。ゐ後ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐ。
命ゐゐゐいゐゐゐゐゐゐゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
山後ゐゐ学ゐゐ。ゐゐゐゐ。ゐゐ。ゐ。

さ[illegible]命となりけらしとあり[illegible]ひろ[illegible]ばべつれもこれは
ぼ[illegible]脱ぎて二人の場中とし[illegible]海で[illegible]下[illegible]枝とまりて
たくさんそ[illegible]赤地[illegible]と追[illegible]ぬ[illegible]のちに[illegible]
は眼一本ものもちてさ[illegible]ぬ[illegible]花が[illegible]
ぬ[illegible]義[illegible]孫計略世[illegible]ぬ[illegible]れ[illegible]
金[illegible]人[illegible]と[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]花と[illegible]の[illegible]し[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]計略[illegible]と[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
と[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]て[illegible]二[illegible]の[illegible]
と[illegible]て[illegible]の[illegible]び[illegible]
[illegible]て[illegible]び[illegible]
[illegible]の[illegible]会[illegible]ふ[illegible]と[illegible]て

[illegible]せ[illegible]ぬ[illegible]人[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]二[illegible]ま[illegible]
さんと[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
と[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]



犯の科ふかくて位所もとりあげられ出家をさせられ左衛
門尉ときつてゐたりしかとも平家の侍従
の兵衛佐殿は流罪なれども因幡かみ三郎義
朝の子なれば所領をあらためられたりしに
時政ながら義朝の子なれば生かしておくべき
ようのやうにかの方へ内々はからひけれども
時政の房は思ひもよらぬ漢なりけるとて
金剛力士のやうなる武者にて有けるを
我家の内へみぐしをとりてまいれ
と云て妻女を脱衣せて両手を結ひ
いましめて妻女をいたはりて
ふうさんとおもひ一人の侍男のもとへ
行てこれまでの
ものをたのみ我もうちあらためて
命をたすけ給へと云ければ
時政とけ給とて妻の方へ行て

おなじ時分三人甲冑を着して
けるが三人にてみくれば打ものを
解て待てゐたりしが耳にかけりもしと起てこれば
なる法師武者三人洪持ちかりとうちぶんと
するにはかなわじとおもひ家よりとび出
ちりなる芝因幡よりとびつけるをしれば
ぬけなりしてゐるの者と清てんぐり別因幡が
はなる力とおぎ和ぬる二人の兵衛ともに戦ひ
ぬ兵衛も兵衛佐殿はもんでめそへ切たをされて
細ぶしにぐるの兵衛とつれずにもぐのおい
ます。兵衛佐殿はそれを見給ひ右
の手と左のもとをはいの方へ落さるを兵衛佐
八月時もしかまいるほどにてとのすぐ長谷もも
ざる者の方へ行とのすぐ長谷もも

要害にいざうの色すぐれの方へ駈出るとゝいはれ[illegible]
山中を分入ちがとは[illegible]行れて行つほどすぐに紅
葉にて[illegible]のがれけるが[illegible]て剃髪すれば[illegible]
みなくれば一人の大名吉兵衛[illegible]きの[illegible]人をまね
ゆくに関をすてきびしく[illegible]をとゞめられべき[illegible]
[illegible]びも[illegible]てゝ[illegible]奥へ[illegible]
[illegible]きなんと[illegible]
土人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

の方へゆわれしとぞ。ついに始終情所いとあれ
ども。物あはれにわれもゆゑ。後世よハ
ハはてをすまさしてよ。出家のまとていとらずと。
後世にのこる。ゆゑ。ゆゑ。保ゆえ。ゆゑ。ゆゑ。
ある身なれ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
のゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

1132271

のつい分はなほ[illegible]ぱさかつれかとめしばは乳とぐらおろすん
に毋ご[illegible]漆さなく[illegible]漆を。あ[illegible]麦[illegible]て縄と
めれよ[illegible]ぬ[illegible]てのぐ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぱ[illegible]の[illegible]と[illegible]
[illegible]ぱ[illegible]と[illegible]力[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]